

スポーツ柔整科・柔道整復科 JT22A JT23A JT24A

分野	教育内容	必修 選択	授 業 科 目	区分	単 位 数	科 目 時 間	1 年次		2 年次		3 年次		
							前	後	前	後	前	後	
基礎	科学的思考の 基盤人間と生 活	必修	生物学	講義	4	60	30	30					
		必修	栄養学	講義	2	30	15	15					
		必修	医療コミュニケーション	講義	4	60	30	30					
		必修	情報リテラシー	演習	2	30	30						
		必修	医用英語	講義	2	30	15	15					
専門 基礎	人体の構造 と機能	必修	解剖学Ⅰ(運動器：骨格系,筋系)	講義	2	60	30	30					
		必修	解剖学Ⅱ	講義	2	60	30	30					
		必修	解剖学Ⅲ	講義	2	60			30	30			
		必修	解剖学Ⅳ	講義	2	60			30	30			
		必修	生理学Ⅰ	講義	2	60	30	30					
		必修	生理学Ⅱ	講義	2	60			30	30			
		必修	解剖生理学Ⅰ	講義	2	30	30						
		必修	解剖生理学Ⅱ	講義	1	15			15				
		必修	運動学	講義	2	60			30	30			
		必修	高齢者の生理学的特徴・変化	講義	1	15			15				
		必修	競技者の生理学的特徴・変化	講義	1	15				15			
		疾病と傷害	必修	一般臨床医学Ⅰ	講義	2	60			30	30		
			必修	一般臨床医学Ⅱ	講義	1	30					30	
	必修		病理学	講義	2	60			30	30			
	必修		外科学概論	講義	2	30				30			
	必修		整形外科学	講義	2	30				30			
	必修		リハビリテーション医学Ⅰ	講義	2	30			30				
	必修		リハビリテーション医学Ⅱ(高齢者の運動機能維持・回復)	講義	1	15				15			
	柔道整復術の適応	必修	柔道整復術の適応	講義	2	30						30	
	保健医療福祉 と 柔道整復の理 念	必修	関係法規	講義	2	30						30	
		必修	衛生学・公衆衛生学	講義	2	60						30	
		必修	職業倫理	講義	1	15						15	
		必修	柔道Ⅰ	実技	1	30		30					
		必修	柔道Ⅱ	実技	1	30			30				
		必修	柔道Ⅲ	実技	1	30				30			
	社会保障制度	必修	社会保障制度	講義	1	15			15				
		必修	基礎柔道整復学Ⅰ	講義	2	60	30	30					
	専門	基礎柔道整復 学	必修	基礎柔道整復学Ⅱ	講義	2	60	30	30				
			必修	基礎柔道整復学Ⅲ	講義	2	60	30	30				
			必修	基礎柔道整復学Ⅳ	講義	2	60	30	30				
			必修	基礎柔道整復学Ⅴ	講義	2	30	15	15				
			必修	基礎柔道整復学Ⅵ(外傷保存療法の経過及び治癒の判定)	講義	2	60					30	30
			臨床柔道整復 学	必修	臨床柔道整復学Ⅰ	講義	2	60			30	30	
必修		臨床柔道整復学Ⅱ		講義	1	30			15	15			
必修		臨床柔道整復学Ⅲ		講義	2	60			30	30			
必修		臨床柔道整復学Ⅳ(物理療法機器の取扱い)		講義	1	30					15	15	
必修		臨床柔道整復学Ⅴ		講義	2	60					30	30	
必修		臨床柔道整復学Ⅵ(柔道整復術の臨床的判定・医用画像)		講義	2	60					30	30	
必修		臨床柔道整復学Ⅶ		講義	2	60					30	30	
必修		臨床柔道整復学Ⅷ		講義	2	60					30	30	
必修		臨床柔道整復学Ⅸ(機能訓練指導)		講義	1	30					15	15	
必修		臨床柔道整復学Ⅹ		講義	1	30						30	
必修		臨床柔道整復学Ⅺ		講義	1	30						30	
柔道整復実技		必修	柔道整復実技Ⅰ	実技	2	60	30	30					
		必修	柔道整復実技Ⅱ(臨床実習前施術試験等)	実技	1	30	15	15					
		必修	柔道整復実技Ⅲ	実技	2	60	30	30					
		必修	柔道整復実技Ⅳ(高齢者の外傷予防)	実技	1	30						30	
		必修	柔道整復実技Ⅴ	実技	2	60			30	30			
	必修	柔道整復実技Ⅵ(競技者の外傷予防)	実技	1	30				30				
	必修	柔道整復実技Ⅶ	実技	1	45			30	15				
	必修	柔道整復実技Ⅷ(機能訓練指導実技)	実技	1	30						30		
	必修	柔道整復実技Ⅸ(スポーツコンディショニング実技)	実技	2	60						30		
	必修	柔道整復実技Ⅹ	実技	2	60						30		
	必修	柔道整復実技Ⅺ	実技	2	60						30		
臨床実習	必修	臨床実習Ⅰ	実習	1	45		45						
	必修	臨床実習Ⅱ	実習	1	45			45					
	必修	臨床実習Ⅲ	実習	1	45				45				
	必修	臨床実習Ⅳ	実習	1	45					45			
合計					107	2775	450	465	465	495	480	420	

# シラバス（授業計画書）

科目名（ 一般臨床医学Ⅱ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

## 1 授業の内容

診察の意義と実際、生命徴候の測定、生理機能検査、検体検査、主に内科的疾患の定義や病態（原因、症状）、検査法、治療、予後を解説し、一般臨床医学の理解を促す。

## 2 到達目標

柔道整復師にとって必要な診察や検査法、主要な疾患について理解できることを目標とする。

## 3 授業の方法

プリントを配布し、適宜追加資料を配布し理解を促す。

## 4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

## 5 評価の際の特記事項

特になし。

## 6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

事前に教科書を予習・復習することで、理解が深まる。疑問に思ったところは積極的に教員に質問すること。

## 7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修「一般臨床医学 改訂第3版」医歯薬出版

## 8 学生へのメッセージ

医療者として、専門分野だけでなく合併している種々の疾患について理解することは、患者さんへの献身的なアプローチに繋がります。是非興味を持って取り組んでください。

## 9 教員氏名 （ 川上 恭 ）

所 属 （ ころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

## 10 特記事項

通常教員による授業

科目名（ 一般臨床医学Ⅱ ）

回数	授業内容
1	診察概論、医療面接
2	視診・打診・聴診・触診・生命徴候
3	感覚検査・反射検査
4	生命徴候の測定・生理機能検査・検体検査・各検査の基準値
5	呼吸器疾患
6	循環器疾患
7	消化器疾患
8	代謝・栄養疾患
9	内分泌疾患
10	血液疾患
11	腎・尿路疾患
12	神経疾患
13	感染症
14	リウマチ・膠原病・アレルギー・環境要因による疾患
15	定期試験
16	試験解説

# シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復術の適応 ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

## 1 授業の内容

柔道整復師の適応範囲を理解し、適切な鑑別が実施できるように、整形外科疾患および内科的疾患を知り、鑑別方法を学ぶことを目的とする。

## 2 到達目標

臨床症状の類似点を理解し、正しい判断ができるように各疾患と柔道整復術の業務範囲内か否かを適切に鑑別できるように、理解力を深める。

## 3 授業の方法

プリントを配布後、パワーポイントを使用しての講義を行う。

## 4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

## 5 評価の際の特記事項

特になし。

## 6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業時に話したポイントに関してはこまめに復習し、覚えるようにしてください。

## 7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修 「施術の適応と医用画像の理解」南江堂  
配布プリント

## 8 学生へのメッセージ

施術を行う上で、業務範囲についての知識と自覚がなければなりません。特に、柔道整復師は健康保険等を利用して受診する患者に対して、適切な対応が求められます。基礎的な知識を学ぶ大切な授業なので、不明な点は必ず質問して、少しずつ理解できるように努力しましょう。

## 9 教員氏名（ 川上 恭 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

## 10 特記事項

通常教員による授業科目

科目名（ 柔道整復術の適応 ）

回数	授業内容
1	柔道整復術の適否を考える
2	損傷に類似した症状を示す疾患 A 内臓疾患 B 腰痛
3	C 化膿性 D 軟部組織
4	血流障害を伴う損傷
5	末梢神経損傷を伴う損傷
6	脱臼骨折
7	外出血を伴う損傷
8	病的骨折および脱臼
9	意識障害を伴う損傷
10	脊髄症状のある損傷
11	呼吸運動障害を伴う損傷
12	内臓損傷の合併が疑われる損傷
13	高エネルギー外傷
14	まとめ
15	定期試験
16	試験解説

# シラバス（授業計画書）

科目名（ 関係法規 ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

## 1 授業の内容

柔道整復師として業務に従事するうえで、「柔道整復師法」とその業務や医療従事者一般として必要な医事福祉法規を中心に、理解しておくべき法令を学ぶ。

## 2 到達目標

法の意義、体系をもとに、柔道整復師法および柔道整復に関する法規を理解する。また、患者の権利やリスクマネジメント、そして、医療従事者の資格法、社会福祉関係法規についても、それらの内容を理解する。

## 3 授業の方法

教科書を用いた講義。

## 4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

## 5 評価の際の特記事項

特になし。

## 6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

法規は難しい言葉や表現があります。授業前に予習（教科書を読む）を行い、難しい言葉の意味を事前に調べるように、予習をする習慣をつけてください。

## 7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修「関係法規・2024年版」南江堂

## 8 学生へのメッセージ

関係法規は、柔道整復師の社会的役割とその使命を全うする為に必要な知識です。積極的に学ぶように努力してください。

## 9 教員氏名（ 永田 俊晴 ）

所 属（ ころこ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

実務経験（ 実務経験 有

整骨院にて施術者として勤務。申請業務や個人情報取扱の経験をもとに講義を行う。 ）

## 10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 関係法規 ）

回数	授業内容
1	法の意義、法の体系
2	柔道整復師および柔道整復に関する法規
3	柔道整復師と患者の権利
4	医療過誤とリスクマネジメント
5	柔道整復師法 ー 第1章 総則、免許
6	柔道整復師法 ー 第2章 免許
7	柔道整復師法 ー 第3章 柔道整復師国家試験
8	柔道整復師法 ー 第4章 業務
9	柔道整復師法 ー 第5章 施術所
10	柔道整復師法 ー 第6章 雑則 第7章 罰則
11	柔道整復師法 ー 第8章 指定登録機関及び指定試験機関 第9章 附則
12	関係法規 ー 医療従事者の資格法 医療法
13	関係法規 ー 社会福祉関係法規 社会保険関係法規 その他の法規
14	まとめ
15	定期試験
16	試験解説

# シラバス（授業計画書）

科目名（ 衛生学・公衆衛生学 ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

## 1 授業の内容

衛生学・公衆衛生学は人間集団を対象とし、生命や生活に影響を及ぼす環境要因を適切に評価・管理することで社会全体の人々の健康増進に寄与することを目的とする学問です。

## 2 到達目標

健康の概念、保健衛生活動の内容、感染症の特徴と予防法を説明できる力を身につけさせる。

## 3 授業の方法

教科書に沿って解説する。必要に応じてスライドの使用や補足資料の配付を行う。  
また授業時間外の学習を促すため、レポート課題を与える。

## 4 成績評価方法・基準

レポート課題達成度 30%、期末試験成績 70%の割合で、総合的に中間評価と後期末評価を行う。

## 5 評価の際の特記事項

中間評価と後期末評価の両方に合格しなければならない。中間評価で合格点に達しなかった場合には、後期末試験時にも再試験を実施する。

## 6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

シラバスに沿って授業を進めるので、その日の授業内容について教科書を読み、予習して授業に臨むこと。予習で理解できなかったことを授業で解決するよう意識し、授業後は必ずその日の内容をまとめて知識の整理・定着に努めること。

## 7 使用教材、教具

全国柔道整復学校協会監修「衛生学・公衆衛生学 改訂第6版」南江堂

## 8 学生へのメッセージ

自ら弱点を見つけて学習する姿勢でなければ、実力は身につかない。国家試験受験学年の自覚を持ち、学生生活の集大成となる1年としてほしい。

理解できない点については個別指導を行うので、遠慮なく質問をぶつけてほしい。

## 9 教員氏名（ 山邊 芳久 ）

所 属（ ころろ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

## 10 特記事項

通常教員による授業

科目名（ 衛生学・公衆衛生学 ）

回数	授業内容
1	授業ガイダンス 健康の概念①（WHO の健康の定義）
2	健康の概念②（国際障害分類 ノーマライゼーション QOL 環境要因）
3	健康の概念③（健康診断 人口統計 慢性疾患と生活）
4	疾病予防（疾病の自然史 感受性期・発症前期・臨床的疾病期と予防）
5	感染症の予防①（成立条件 感染源 感染経路 感受性宿主）
6	感染症の予防②（細菌、リケッチア、スピロヘータ、ウイルス感染症）
7	感染症の予防③（クラミジア、原虫、寄生虫感染症）
8	感染症の予防④（感染源対策 感染経路対策 感受性宿主対策 ワクチン）
9	まとめと復習（健康の概念、疾病予防、感染症の予防）
10	消毒①（消毒の概念 滅菌と消毒の違い 殺菌と防腐）
11	消毒②（消毒の種類 物理的消毒 乾熱と湿熱 化学的消毒法）
12	消毒③（消毒法の条件と特徴 煮沸 高圧蒸気滅菌法 焼却）
13	消毒④（消毒薬の種類 特徴と適応 消毒作用の区分）
14	消毒⑤（日和見感染 院内感染対策 スタンダード・プリコーション）
15	中間試験
16	試験解説
17	環境衛生①（地球規模の環境問題 地球温暖化 オゾン層破壊）
18	環境衛生②（環境因子 温熱の4因子 騒音 放射線 公害）
19	生活環境（上水と下水 衣服 住居 廃棄物処理）
20	母子保健①（意義 指標 新生児 乳児 周産期）
21	母子保健②（母子健康手帳 子育て支援）
22	学校保健（保健教育と保健管理 学校保健関係職員）
23	産業保健（業務上疾患と対策 健康診断の種類）
24	まとめと復習（環境衛生～産業保健）
25	成人・高齢者保健（意義 生活習慣病 後期高齢者）
26	精神保健（意義 精神の病期 入院治療の種類）
27	地域保健と国際保健（プライマリ・ヘルス・ケア 国際保健と WHO）
28	衛生行政と保健医療の制度（保健所の役割 医療制度 医療保険）
29	医療の倫理（パートナーリズムとインフォームドコンセント 医療安全）
30	疫学（記述疫学 分析疫学 介入研究）
31	定期試験
32	試験解説

# シラバス（授業計画書）

科目名（ 職業倫理 ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

## 1 授業の内容

柔道整復師としての倫理、マナー、コンプライアンスの基本を学習する。

## 2 到達目標

患者の自己決定権の尊重、プライバシーの保護とインフォームドコンセントなど、医療関係者として求められる倫理、マナーについて理解する。

## 3 授業の方法

教科書および適宜必要に応じて参考資料の配布をおこなう。

## 4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

## 5 評価の際の特記事項

特になし。

## 6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

事前に教科書を読み、わからない語句や読み方などは調べておいてください。

## 7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修「社会保障制度と柔道整復師の職業倫理」医歯薬出版株式会社

## 8 学生へのメッセージ

柔道整復師として仕事に就くうえで重要な基本理念を学習する授業です。不明な点があるときは必ず質問をして、少しずつ理解を深めるように努力しましょう。

## 9 教員氏名（ 永田 俊晴 ）

所 属（ ころこ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

実務経験（ 実務経験 有

整骨院にて施術者として勤務。患者への対応などの経験をもとに講義を行う。 ）

## 10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 職業倫理 ）

回数	授業内容
1	オリエンテーション 授業内容の説明
2	柔道整復師としての倫理（柔道整復師に求められる倫理とは）
3	柔道整復師としての倫理（柔道整復師が果たすべき役割）
4	柔道整復師・施術所に対する信頼
5	柔道整復師としての社会貢献 社会奉仕
6	医療関係者・社会人としての倫理・マナー
7	医療関係者として求められる倫理
8	医療関係者としてのマナー
9	社会人としてのマナー
10	患者との接し方
11	患者の自己決定権の尊重
12	プライバシーの保護とインフォームドコンセント 守秘義務
13	コンプライアンス（法令遵守）
14	保険請求のルールの遵守 道徳・慣習
15	定期試験
16	試験解説

# シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道Ⅳ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

## 1 授業の内容

柔道整備養成施設指導要領の定める所による、卒業判定基準に達する為の実技能力の習得。

## 2 到達目標

柔道実技審査項目合格。

## 3 授業の方法

講堂に畳を敷き実施する。

## 4 成績評価方法・基準

基本実技試験で評価するが、出席率・授業態度も加味する。

## 5 評価の際の特記事項

授業態度とは、身だしなみ・適切な返事・適切な行動・周りに迷惑をかけないなどを評価に入れる。

## 6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

実技試験前の自己練習においては、必ず専任教員に申告して実施すること。特に怪我などに留意し、練習後は清掃を行うこと。

## 7 使用教材，教具

全国柔道整備学校協会監修「柔道」 南江堂出版など、資料を適宜配布する。

## 8 学生へのメッセージ

相手を尊重し、怪我をしない、させないように集中して授業に取り組んで下さい。

## 9 教員氏名 （ 宮田 哲弘 ）

所 属 （ ころろ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 実務経験 有

柔道有段者として認定実技柔道審査員登録。柔道指導経験をもとに実技を行う。 ）

## 10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 柔道Ⅳ ）

回数	授業内容
1	形、約束乱取の練習
2	形から約束乱取の流れ
3	形の練習（浮落、背負投）
4	約束乱取の練習
5	認定実技の流れ
6	形の練習（肩車、浮腰）
7	形の練習（払腰）
8	形から約束乱取
9	礼法、形の練習
10	礼法～形への流れ
11	認定実技の動き方
12	認定実技の練習
13	認定実技の練習（礼法の流れ）
14	認定実技の練習（礼法～形）
15	定期試験
16	試験解説

# シラバス（授業計画書）

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅵ 外傷保存療法の経過及び治癒の判定 ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

## 1 授業の内容

柔道整復師として備えるべき外傷性疾患への対応能力の強化のため、外傷の保存療法についての基礎を学習し、外傷の経過及び治療判断に関する外傷の保存療法の適用と限界を理解する。

## 2 到達目標

柔道整復師の業務範囲の理解を深める意味でも保存療法適用の基準と特徴を学びながら、その特性を理解し、好発する損傷を知り、それらの予防法の基礎について学んでいきます。特に、専門基礎分野と専門分野の知識が不可欠となるので、解剖学、生理学、柔道整復理論を学習し、理解を深めるように、日々の学習に取り組んでください。

## 3 授業の方法

座学

## 4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

## 5 評価の際の特記事項

特になし。

## 6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

その日に学習した内容は、必ずその日のうちに復習し、理解できているかを確認してください。理解不足な点は質問などで理解力を深める努力をしてください。

## 7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学・理論編 改定第7版」南江堂

全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学・実技編 改訂第2版」南江堂

## 8 学生へのメッセージ

2年生までに学んだ各損傷の理論し、外傷の保存療法のポイントを学んでいきます。授業の進行状況を事前に把握しておきましょう。

## 9 教員氏名（ 赤島 紋花 ）

所 属 （ ころも医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 実務経験 有

整骨院にて施術者として勤務。患者への物理療法による治療経験をもとに講義を行う。 ）

## 10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 基礎柔道整学Ⅵ 外傷保存療法の経過及び治癒の判定 ）

回数	授業内容
1	前期ガイダンス
2	損傷の診察①（骨折）
3	損傷の診察②（脱臼）
4	損傷の診察③（軟部組織損傷）
5	鑑別診断 合併症の有無を判定 その他の治療法に関する情報の開示
6	説明と同意
7	徒手整復 固定法 整復・固定後の確認
8	医科との連携 固定期間の検討
9	後療法①（物理療法）
10	後療法②（手技療法 運動療法）
11	治癒の判定①（患者環境）
12	治癒の判定②（自己管理）
13	注意事項 指導管理 予後
14	まとめ復習
15	中間試験
16	試験解説
17	肩部に直接的な外力が加わった場合①（肩部）
18	肩部に直接的な外力が加わった場合②（肩峰部）
19	肩部に直接的な外力が加わった場合③（肩甲骨部）
20	肩部に間接的な外力が加わった場合①（肩外転・手掌部打撲）
21	肩部に間接的な外力が加わった場合②（肩内転・肘部打撲）
22	肩部に間接的な外力が加わった場合③（肩外転・肘部打撲）
23	明確な原因がない場合①（野球 バレー）
24	明確な原因がない場合②（テニス 水泳）
25	明確な原因がない場合③（体操 重量物）
26	整形外科における診断の実状
27	まとめ復習 損傷の診察
28	まとめ復習 後療法
29	まとめ復習 治癒の判定
30	まとめ復習 外傷保存療法の経過及び治癒の判定
31	定期試験
32	試験解説

# シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅳ 物理療法機器の取扱い ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

## 1 授業の内容

柔道整復師として必要な物理療法の知識と技能を学習する。

## 2 到達目標

臨床に必要な知識・技能を身につける。

## 3 授業の方法

教科書を中心とした講義や実技。及び各項目終了後に課題を行う。

## 4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

## 5 評価の際の特記事項

特になし。

## 6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

事前に教科書の予習、直後の復習により知識が定着する。さらに教科書以外の参考書で学習する事によりさらに理解が深まる。

## 7 使用教材，教具

全国柔道整復師協会「柔道整復学・理論編 改定第7版」南江堂

## 8 学生へのメッセージ

物理療法は柔道整復業務で大事な所なのでしっかり勉強して下さい。業務範囲を理解し、その使用方法、禁忌をできる限り理解するように、適時質問するようにしてください。

## 9 教員氏名（ 永田 俊晴 ）

所 属（ ころろ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 実務経験 有

整骨院にて施術者として勤務。患者への物理療法による治療経験をもとに講義を行う。 ）

## 10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名 ( 臨床柔道整復学Ⅳ 物理療法機器の取扱い )

回数	授業内容
1	オリエンテーション
2	物理療法の分類
3	物理療法の説明と同意
4	物理療法の禁忌
5	物理療法施行時の患者体位や患肢の肢位
6	物理療法の刺激強度
7	物理療法の変更
8	物理療法の指導管理
9	物理療法機器の安全対策
10	電気療法 (低周波電気刺激療法)
11	電気療法 (中周波電流療法)
12	変換熱療法 (超音波療法)
13	伝導熱療法 (ホットパック療法)
14	前期まとめ
15	中間試験
16	試験解説
17	伝導熱療法 (パラフィン浴療法・水治療法)
18	輻射熱療法
19	変換熱療法 (超短波療法)
20	変換熱療法 (極超短波療法)
21	変換熱療法 (超音波療法)
22	光線療法
23	寒冷療法 (伝導冷却法)
24	寒冷療法 (対流冷却法)
25	寒冷療法 (気化冷却法)
26	牽引療法 (頸椎介達牽引)
27	牽引療法 (腰椎介達牽引)
28	間欠的圧迫法
29	後期の復習①電気・温熱療法
30	後期の復習②寒冷・牽引・間欠療法
31	定期試験
32	試験解説

# シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅴ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

## 1 授業の内容

頭部、体幹、上肢の骨折各論を復習し、特に臨床的に重要な発生機序、診察法、整復法、固定法の理解を深める。

## 2 到達目標

各損傷の特徴を理解し、診察法を基本に、損傷を明確に評価できる根拠を症状から読み取れる応用力を身に着けることを目標とする。

## 3 授業の方法

教科書を中心とした講義や実技。及び各項目終了後に課題を行う。

## 4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

## 5 評価の際の特記事項

特になし。

## 6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

事前に教科書の予習、直後の復習により知識が定着する。さらに教科書以外の参考書で学習する事によりさらに理解が深まる。

## 7 使用教材、教具

全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学・理論編 改定第7版」南江堂

全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学・実技編 改訂第2版」南江堂

## 8 学生へのメッセージ

2年生までに学んだ各損傷の理論し、外傷の保存療法のポイントを学んでいきます。授業の進行状況を事前に把握しておきましょう。

## 9 教員氏名（永田 俊晴）

所属（ ころろ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 実務経験 有

整骨院にて施術者として勤務。患者への物理療法による治療経験をもとに講義を行う。 ）

## 10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名 ( 臨床柔道整復学Ⅴ )

回数	授業内容
1	頭蓋骨骨折
2	顔面頭蓋骨骨折
3	頸椎骨折
4	胸椎骨折
5	腰椎骨折
6	肋骨骨折
7	胸骨骨折
8	鎖骨骨折
9	肩甲骨骨折
10	上腕骨近位部骨折
11	上腕骨骨幹部骨折
12	上腕骨遠位部骨折
13	体幹部骨折復習
14	鎖骨～上腕骨骨折復習
15	中間試験
16	試験解説
17	前腕骨近位部骨折
18	前腕骨骨幹部骨折
19	前腕骨遠位端部骨折
20	手根骨部骨折
21	中手骨部骨折
22	指骨骨折
23	骨盤骨骨折
24	大腿骨骨折
25	膝蓋骨骨折
26	下腿骨骨折
27	足部骨折
28	趾骨骨折
29	前腕部～指骨骨折復習
30	下肢骨骨折復習
31	定期試験
32	試験解説

# シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅵ 柔道整復術の臨床的判定・医用画像 ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

## 1 授業の内容

柔道整復師に必要な施術の適応判断の知識と、医用画像の理解を深め、担当教員の実務経験を基に、患者への接し方、所見の取り方、画像の運用方法、治療の説明を行い、実践的な知識力を身に付ける。

## 2 到達目標

柔道整復師として施術の適応、医用画像の理解ができるようになる。

## 3 授業の方法

教科書を用いた授業を行う。

## 4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

## 5 評価の際の特記事項

特になし。

## 6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画に沿った教科書の復習を行うこと。

## 7 使用教材，教具

全国柔道整復協会監修「施術の適応と医用画像の理解」南江堂

## 8 学生へのメッセージ

柔道整復師として働くために必要な知識になりますので、理解を深めてください。

## 9 教員氏名（ 赤島 紋花 ）

所属（ ころ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 実務経験 有

整骨院にて施術者として勤務。患者への物理療法による治療経験をもとに講義を行う。 ）

## 10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 臨床柔道整復学VI 柔道整復術の臨床的判定・医用画像 ）

回数	授業内容
1	柔道整復術の適否
2	損傷に類似する症状を示す疾患（内臓疾患、腰痛）
3	損傷に類似する症状を示す疾患（化膿性炎症）
4	血流障害
5	末梢神経損傷
6	脱臼骨折
7	外出血を伴う損傷（判断と対応）
8	外出血を伴う損傷（骨折）
9	外出血を伴う損傷（脱臼、軟部組織損傷）
10	病的骨折および脱臼
11	意識障害
12	脊髄症状（判断と対応、骨折）
13	脊髄症状のある損傷（脱臼、軟部組織損傷）
14	前期まとめ
15	中間試験
16	試験解説
17	呼吸運動障害
18	内臓損傷の合併が疑われる損傷
19	高エネルギー外傷
20	医用画像とは、放射線の概要
21	主要な部位の一般撮影法
22	画像のデジタル化
23	CT の概要
24	CT 撮影の実際
25	MRI の概要
26	MR 検査の手順
27	超音波画像装置の概要
28	運動器系の画像
29	臨床画像の実際
30	後期まとめ
31	定期試験
32	試験解説

# シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅶ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

## 1 授業の内容

柔道整復学の総論および下肢の骨折を復習し、その詳細を徹底して理解する。

## 2 到達目標

総論の内容は、各損傷を理解するうえで土台となるものであり、総論の基礎知識が乏しいと、各損傷の理解度が低くなる。総論を詳細にわたる範囲で学びなおし、理解度を深めることを目標とする。

## 3 授業の方法

演習問題を解きながら復習を行っていく。

## 4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

## 5 評価の際の特記事項

特になし。

## 6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

毎回見直しをして、自分の理解できていない個所をよく知るようにしてください。復習の徹底が学習成果として表れることを自覚してください。

## 7 使用教材，教具

全国柔道整復師協会「柔道整復学・理論編 改定第7版」南江

## 8 学生へのメッセージ

国家試験合格も視野に入れ、自己の学習状況を常に分析し、学習計画を立て、それに沿った自己学習を心がけてください。

## 9 教員氏名（ 赤島 紋花 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 実務経験 有

整骨院にて施術者として勤務。患者への物理療法による治療経験をもとに講義を行う。 ）

## 10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅶ ）

回数	授業内容
1	損傷時に加わる力、痛みの基礎
2	骨の損傷① 分類
3	骨の損傷② 症状 合併症
4	骨の損傷③ 小児骨折 高齢者骨折
5	骨の損傷④ 癒合日数 治癒経過 予後
6	関節損傷① 概説 分類
7	関節損傷② 損傷組織 類症
8	関節損傷③ 脱臼
9	筋損傷
10	腱損傷
11	末梢神経損傷
12	診察① 注意点 概説 時期による分類 治療計画作成
13	診察② 施術録の扱いと記載の実際
14	前期まとめ
15	中間試験
16	試験解説
17	治療法
18	骨盤骨骨折①（単独骨折）
19	骨盤骨骨折②（骨輪骨折）
20	大腿骨骨折①（近位部）
21	大腿骨骨折②（骨幹部 遠位部）
22	膝蓋骨骨折
23	下腿骨骨折①（近位部）
24	下腿骨骨折②（骨幹部 遠位部）
25	下腿骨遠位端部骨折
26	足関節脱臼骨折
27	足根骨骨折①（距骨 踵骨）
28	足根骨骨折②（足根骨）
29	中足骨骨折 趾骨骨折
30	後期まとめ
31	定期試験
32	試験解説

# シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅷ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

## 1 授業の内容

柔道整復術を臨床的に実践するための基本的理念を、シミュレーションを交えながら学習していく。

## 2 到達目標

すでに学んだ各損傷の理論を実際に施術に活かせるように、その基礎について更なる理解力を身につける事を目標とする。

## 3 授業の方法

板書を中心にグループワークも取り入れて行う。

## 4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

## 5 評価の際の特記事項

特になし。

## 6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

復習を徹底して実施し、自己の理解度を分析し、学習方法を確立していく。

## 7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学・理論編 改訂第7版」南江堂

全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学・実技編 改訂第2版」南江堂

## 8 学生へのメッセージ

国家試験合格も視野に入れ、自己学習に活かせるよう授業に集中してください。

## 9 教員氏名（ 赤島 紋花 / 永田 俊晴 ）

所 属 （ ころろ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 実務経験 有

整骨院にて施術者として勤務。患者への物理療法による治療経験をもとに講義を行う。 ）

## 10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅷ ）

回数	授業内容
1	柔道整復業務
2	骨折の施術
3	脱臼の施術
4	軟部組織の施術
5	損傷の診察
6	鑑別診断
7	合併症の有無の判定
8	その他の治療法に関する情報の提示
9	説明と同意
10	徒手整復
11	固定法
12	整復・固定の確認
13	医科との連携
14	固定期間の検討
15	中間試験
16	試験解説
17	後療法①（用量）
18	後療法②（患者の準備）
19	指導管理
20	骨折各論 体幹
21	上肢骨折（鎖骨～上腕骨）
22	上肢骨折（前腕骨～指骨）
23	下肢骨折（骨盤～膝蓋骨）
24	下肢骨折（下腿骨～趾骨）
25	上肢脱臼
26	下肢脱臼
27	体幹部軟部組織損傷
28	上肢軟部組織損傷
29	下肢軟部組織損傷
30	まとめ
31	定期試験
32	試験解説

# シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅸ 機能訓練指導 ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

## 1 授業の内容

柔道整復師が携わる機能訓練指導について、内容を理解し実践につながる基礎を学ぶ。

## 2 到達目標

高齢者の身体的・心理的特徴を理解し、特有の疾病を知ることが目標とする。併せて介護について学ぶことで機能訓練指導を具体的にイメージでき、機能訓練指導員として柔道整復師が介護の分野における位置づけを理解する。

## 3 授業の方法

教科書を用いた授業を行う。

## 4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

## 5 評価の際の特記事項

特になし。

## 6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業時間が45分と短いので、予め教科書を読んでおくこと。復習はその日のうちに学習した内容をもう一度見直し、不明な点を不明なままにしないようにする。

## 7 使用教材，教具

公益社団法人全国柔道整復学校協会監修

「柔道整復師と機能訓練指導 — 機能訓練指導員養成テキスト」

## 8 学生へのメッセージ

柔道整復師が介護の分野で業務に携わるためには、高齢者の特徴や介護保険についての知識を身につけることが重要です。また、地域医療連携を実現させるためにも、きちんと学習してください。

## 9 教員氏名（ 宮田 哲弘 ）

所 属 （ ころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 実務経験 有

整骨院にて施術者として勤務。患者への物理療法による治療経験をもとに講義を行う。 ）

## 10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅸ 機能訓練指導 ）

回数	授業内容
1	柔道整復師と介護保険
2	人間の成長と発達の基礎的理解
3	老年期の発達と成熟
4	老化に伴う心と身体の変化と日常生活
5	エイジング理論
6	高齢者と健康
7	認知症の定義
8	認知症を取り巻く状況
9	医学的側面からみた認知症の基礎
10	認知症にともなう心と体の変化と日常生活
11	連携と協働
12	家族への支援
13	認知症予防
14	前期まとめ
15	中間試験
16	試験解説
17	介護保険制度
18	要介護度
19	要介護度認定
20	介護保険の給付（介護サービス）
21	介護保険の給付（介護関連職種）
22	介護の過程
23	高齢者介護
24	ICF
25	介護予防と生活機能の向上
26	介護予防・日常生活支援総合事業
27	ロコモティブシンドローム
28	高齢者自立支援の理解
29	機能訓練指導員と機能訓練①
30	機能訓練で提供する運動と要点
31	定期試験
32	試験解説

# シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅹ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

## 1 授業の内容

柔道整復術を臨床的に実践するための指導管理及び外傷予防を、シミュレーションを交えながら学習していく。

## 2 到達目標

すでに学んだ各損傷の理論を実際に施術に活かせるように、その指導管理及び外傷予防について更なる理解力を身につける事を目標とする。

## 3 授業の方法

板書を中心にグループワークも取り入れて行う。

## 4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

## 5 評価の際の特記事項

特になし。

## 6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

復習を徹底して実施し、自己の理解度を分析し、学習方法を確立していく。

## 7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学・理論編 改訂第7版」南江堂

全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学・実技編 改訂第2版」南江堂

## 8 学生へのメッセージ

柔道整復師として必要な知識になりますので、自己学習に活かせるように授業に集中してください。

## 9 教員氏名（ 赤島 紋花 ）

所 属 （ ころこ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 実務経験 有

整骨院にて施術者として勤務。患者への物理療法による治療経験をもとに講義を行う。 ）

## 10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅹ ）

回数	授業内容
1	指導管理
2	日常生活動作 環境の指導管理
3	姿勢、肢位、歩行の指導管理
4	衣服 食事動作 入浴 清潔保持・保清 トイレの指導管理
5	体調把握の指導管理
6	施術所外でできる運動の指導管理
7	住宅環境、就労環境に対する指導管理
8	スポーツ活動の指導管理
9	自己管理に対する指導
10	外傷予防概論
11	運動機能向上と教育活動
12	身体の基礎的状态の評価と対応
13	健康と体調管理
14	早期発見・早期治療
15	定期試験
16	試験解説

# シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床柔道整復学XI ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

## 1 授業の内容

柔道整復師が臨床上接することの多い各種軟部組織損傷の詳細な内容を学習する。

## 2 到達目標

2年次に学習した内容を振り返り、さらに詳細な臨床症状、治療法、後療法の理論を学習し、習得する。

## 3 授業の方法

板書を基本に進める。

## 4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

## 5 評価の際の特記事項

特になし。

## 6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

復習は、その日のうちに学習した内容をもう一度見直し、不明な点を不明なままにしないようにする。

## 7 使用教材，教具

全国柔道整復師協会「柔道整復学・理論編 改定第7版」南江堂

## 8 学生へのメッセージ

柔道整復師の治療法を体得するためには、外傷の基礎をしっかりと習得することです。理論を理解することで、治療の技術習得に繋がるので、積極的に学習してください。

## 9 教員氏名（ 永田 俊晴 ）

所属（ ころろ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 実務経験 有

整骨院にて施術者として勤務。患者への物理療法による治療経験をもとに講義を行う。 ）

## 10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅺ ）

回数	授業内容
1	頭部・顔面部の軟部組織損傷
2	体幹部の軟部組織損傷
3	肩関節部、上腕部の軟部組織損傷
4	肘関節部、前腕部の軟部組織損傷
5	手関節の軟部組織損傷
6	手部・指部の軟部組織損傷
7	股関節、大腿部の軟部組織損傷
8	膝関節部の軟部組織損傷
9	下腿部の軟部組織損傷
10	足関節部の軟部組織損傷
11	足・趾部の軟部組織損傷
12	軟部組織損傷の徒手検査法①（体幹）
13	軟部組織損傷の徒手検査法②（上肢）
14	軟部組織損傷の徒手検査法③（下肢）
15	定期試験
16	試験解説

# シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復実技Ⅳ 高齢者の外傷予防 ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

## 1 授業の内容

高齢者の身体の生理的・機能的特徴を理解し、高齢者に発生頻度の高い外傷について、その発生原因と予防について学ぶ。

## 2 到達目標

柔道整復術を基本に、機能訓練指導やリハビリテーションからみた高齢者の外傷予防の知識を修得する。

## 3 授業の方法

実習室において実技実習を行い、外傷予防の技術を体得する。

## 4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

## 5 評価の際の特記事項

特になし。

## 6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

実習で学んだ実技内容を必ず復習する時間をつくること。繰り返しの実技演習が技術を修得す上で重要なことを認識すること。

## 7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学・理論編第7版」南江堂

全国柔道整復学校協会監修「柔道整復師と機能訓練指導」南江堂

## 8 学生へのメッセージ

柔道整復師が高齢者に関わる施術について、高齢者の身体的特徴や外傷を学び、その外傷予防の知識を身につけてください。白衣は常に清潔にしましょう。爪は短くし、装飾品（指輪、ピアスなど）は全て外してください。長髪の場合は後ろにまとめてください。

## 9 教員氏名（永田 俊晴）

所属（ ころ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 実務経験 有

整骨院にて施術者として勤務。患者への物理療法による治療経験をもとに講義を行う。 ）

## 10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 柔道整復実技Ⅳ 高齢者の外傷予防 ）

回数	授業内容
1	高齢者の身体的特徴：生理学的特徴
2	ロコモティブシンドロームとは
3	ロコモティブシンドロームと運動器不安定症との相違，ロコチェック
4	ロコモーショントレーニング
5	高齢者の転倒予防
6	機能訓練指導員，介護予防・機能訓練指導員認定柔道整復師
7	リハビリテーションと機能訓練の相違
8	機能訓練の対象となる障害の捉え方
9	高齢者の疾患の特徴
10	高齢者に多い外傷
11	高齢者の外傷予防
12	高齢者への施術の限界
13	機能訓練で提供する運動と要点
14	まとめ
15	定期試験
16	試験解説

# シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復実技Ⅷ 機能訓練指導実技 ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

## 1 授業の内容

機能訓練指導で提供する運動と要点を理解し、実践できる基礎を学ぶ。

## 2 到達目標

機能訓練指導を行う上で、高齢者の生理学的特徴を理解し、それぞれの心身状態に沿った内容の運動指導が実施できることを目標とする。

## 3 授業の方法

相互に施術者役と患者役になりながら運動療法を行う。

## 4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

## 5 評価の際の特記事項

特になし。

## 6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進行計画を参考に事前に内容を確認・予習をする。学んだ内容を必ず復習すること。繰り返しの実技練習が技術を修得する上で重要なことを認識すること。

## 7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修「柔道整復師と機能訓練」南江堂

全国柔道整復学校協会監修「競技者の外傷予防」医歯薬出版

## 8 学生へのメッセージ

今までに学んだ各損傷の理論を応用し、身体機能回復の基礎技術を機能訓練に置き換え、その技法を身につけましょう。臨床力を身に付けるために、医療面接、患者への対応なども実践できるよう、ロールプレイを通して学びましょう。白衣は常に清潔を心掛けてください。爪は短くし、装飾品（指輪、ピアスなど）は全て外してください。長髪の場合は後ろにまとめるようにしてください。

## 9 教員氏名（ 永田 俊晴 ）

所 属（ ころこ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 実務経験 有

整骨院にて施術者として勤務。患者への物理療法による治療経験をもとに講義を行う。 ）

## 10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 柔道整復実技Ⅷ 機能訓練指導実技 ）

回数	授業内容
1	オリエンテーション 機能訓練指導員と機能訓練
2	柔道整復師が行う機能訓練指導の特性
3	機能訓練の評価
4	個別機能訓練実施計画書の作成
5	機能訓練指導員の保持すべき知識・能力 リスクマネジメント
6	機能訓練指導員の保持すべき知識・能力 疾患・症候とリスク
7	拘縮のある利用者の機能訓練
8	機能訓練で提供する運動と要点 機能訓練の手順
9	プログラムの実施
10	器具を用いない運動 背臥位で行う軽運動
11	運動開始前の予備運動
12	立位で行う上肢・体幹のストレッチング
13	立位で行う下肢のストレッチング
14	まとめ
15	定期試験
16	試験解説

# シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復実技Ⅸ スポーツコンディショニング実技 ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

## 1 授業の内容

軟部組織損傷について、各損傷を理解しながら実際の施術方法を実技で学ぶ。特にスポーツコンディショニングに焦点を当てて体験する。

## 2 到達目標

各損傷の発生機序と臨床症状を理解し、その診察法の手順、検査法の実際を実技実習において基礎的手法を身につけることを目標とする。

## 3 授業の方法

ロールプレイを基本として実施する。

## 4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

認定実技審査合格を単位取得の条件とする。

## 5 評価の際の特記事項

特になし。

## 6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進行計画を参考に予め内容を確認・予習をする。学んだ内容は必ず復習すること。繰り返しの実技演習が技術を修得する上で重要なことを認識すること。

## 7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学・実技編 改定第2版」南江堂

## 8 学生へのメッセージ

今まで学んだ各損傷の理論を思い出し、認定実技審査受験を視野に入れ、診察法・整復法・固定法の基礎技術を身に付けましょう。臨床力を身に付けるため、医療面接、患者への対応なども実践できるよう、ロールプレイングをとおして学びましょう。

白衣は常に清潔を心掛けてください。爪は短くし、装飾品（指輪、ピアスなど）は全て外してください。長髪の場合は後ろにまとめるようにしてください。

## 9 教員氏名（ 永田 俊晴 ）

所 属（ ころろ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 実務経験 有

整骨院にて施術者として勤務。患者への物理療法による治療経験をもとに講義を行う。 ）

## 10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名 ( 柔道整復実技Ⅸ スポーツコンディショニング実技 )

回数	授業内容
1	肩腱板損傷 診察法
2	肩腱板損傷 検査法
3	上腕二頭筋長頭腱損傷 診察法
4	上腕二頭筋長頭腱損傷 検査法
5	ハムストリングス肉ばなれ損傷 診察法
6	ハムストリングス肉ばなれ損傷 検査法
7	大腿四頭筋打撲損傷 診察法
8	大腿四頭筋打撲損傷 検査法
9	膝側副靭帯損傷 診察法
10	膝側副靭帯損傷 検査法
11	十字靭帯損傷 診察法
12	十字靭帯損傷 検査法
13	半月板損傷 診察法
14	半月板損傷 検査法
15	中間試験
16	試験解説
17	下腿三頭筋肉ばなれ損傷 診察法
18	下腿三頭筋肉ばなれ損傷 検査法
19	足外側靭帯損傷 診察法
20	足外側靭帯損傷 検査法
21	下腿骨骨幹部骨折 固定法 (注意点)
22	下腿骨骨幹部骨折 固定法 (流れ)
23	アキレス腱断裂 固定法 (長下肢装具)
24	アキレス腱断裂 固定法 (短下肢装具)
25	足外側靭帯損傷 固定法 (局所副子)
26	膝内側側副靭帯損傷 固定法 (テーピング)
27	膝内側側副靭帯損傷 固定法 (ギプスシャーレ)
28	足外側靭帯損傷 固定法 (バスケットウィーブテープ)
29	足外側靭帯損傷 固定法 (フィギュアエイト・ヒールロックテープ)
30	まとめ
31	定期試験
32	試験解説

# シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復実技Ⅹ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

## 1 授業の内容

柔道整復の施術の基礎を学び、実践しながら臨床への対応を理解する。柔道整復師の日常業務である療養費の取扱い方法についても学ぶ。

## 2 到達目標

柔道整復術の問診から施術までの手順を、ロールプレイを通して体感し、診察、施術、受付業務の実技を修得することを目標とする。

## 3 授業の方法

ロールプレイを基本とする。

## 4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

## 5 評価の際の特記事項

特になし。

## 6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

その日に実施した内容をその日のうちに再度シミュレーションして復習する。

## 7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学・理論編 改訂第7版」南江堂

全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学・実技編 改訂第2版」南江堂

全国柔道整復学校協会監修「社会保障制度と柔道整復師の職業倫理」医歯薬出版

## 8 学生へのメッセージ

実際の臨床現場と思い真剣に取り組んでください。

## 9 教員氏名（ 赤島 紋花 ）

所 属 （ ころこ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 実務経験 有

整骨院にて施術者として勤務。患者への物理療法による治療経験をもとに講義を行う。 ）

## 10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 柔道整復実技X ）

回数	授業内容
1	診察法の実際
2	問診・視診・触診の方法
3	医療コミュニケーションの実際
4	機能的診察
5	鑑別診断～説明と同意
6	徒手整復 固定法 整復・固定後の確認
7	医科との連携～後療法
8	経過
9	物理療法、手技療法、運動療法
10	治療の判定
11	診察
12	整復法
13	固定法
14	後療法
15	中間試験
16	試験解説
17	試験解説
18	医療面接の実際（問診）
19	医療面接の実際（視診）
20	医療面接の実際（触診）
21	医療面接の実際（検査法）
22	医療面接の実際（病態説明）
23	医療面接の実際（予後の説明）
24	医療面接の実際（説明と同意）
25	医療面接の実際（施術録の記載）
26	医療面接の実際（申請書の記載）
27	医療面接の実際（療養費の請求方法）
28	医療面接の実際（受領委任の説明）
29	医療面接の実際（償還払いの説明）
30	まとめ
31	定期試験
32	試験解説

# シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復実技XI ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

## 1 授業の内容

各損傷の応急手当の手順を実技実習において学ぶ。

## 2 到達目標

各損傷の評価法を通して実際の施術はもとより、合併症なども視野に入れた応急手当の方法を体得することを目標とする。

## 3 授業の方法

ロールプレイを中心に実施する。

## 4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

## 5 評価の際の特記事項

特になし。

## 6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

各外傷の発生機序や臨床症状をしっかりと頭に入れた状態で実技に臨んでもらいたいので、予習を重点に自己学習を欠かさないでほしい。

## 7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修「施術の適応と医用画像の理解」南江堂

全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学・実技編 改訂第2版」南江堂

## 8 学生へのメッセージ

理解の足りない個所があればいつでも質問するように心がけてください。白衣は常に清潔を心掛けてください。爪は短くし、装飾品（指輪、ピアスなど）は全て外してください。女子は髪を後ろにまとめるようにしてください。

## 9 教員氏名（ 永田 俊晴 ）

所 属 （ ころこ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 実務経験 有

整骨院にて施術者として勤務。患者への物理療法による治療経験をもちに講義を行う。 ）

## 10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 柔道整復実技Ⅺ ）

回数	授業内容
1	頭部・顔面部の損傷（骨折）
2	頭部・顔面部の損傷（脱臼 軟部組織損傷）
3	頸部の損傷（骨折）
4	頸部の損傷（脱臼 軟部組織損傷）
5	胸・背部の損傷（骨折）
6	胸・背部の損傷（脱臼 軟部組織損傷）
7	腰部の損傷（骨折）
8	腰部の損傷（脱臼 軟部組織損傷）
9	鎖骨部の損傷（骨折）
10	鎖骨部の損傷（脱臼 軟部組織損傷）
11	体幹部損傷の復習
12	肩関節部の損傷（骨折）
13	肩関節部の損傷（脱臼）
14	肩関節部の損傷（軟部組織）
15	肩関節部の損傷（まとめ）
16	上腕部の損傷（骨折）
17	上腕部の損傷（脱臼 軟部組織損傷）
18	肘関節部の損傷（骨折）
19	肘関節部の損傷（脱臼 軟部組織損傷）
20	前腕部の損傷（骨折：橈骨）
21	前腕部の損傷（骨折：尺骨）
22	前腕部の損傷（脱臼）
23	前腕部の損傷（軟部組織損傷）
24	手関節部の損傷（骨折）
25	手関節部の損傷（脱臼 軟部組織損傷）
26	手・指部の損傷（骨折：中手骨）
27	手・指部の損傷（骨折：指骨）
28	手・指部の損傷（脱臼）
29	手・指部の損傷（軟部組織損傷）
30	上肢部損傷の復習
31	中間試験（集中講義）
32	試験解説

33	骨盤部の損傷
34	股関節部の損傷
35	大腿部の損傷
36	膝関節部の損傷（骨折 脱臼）
37	膝関節部の損傷（軟部組織損傷）
38	下腿部の損傷
39	足関節部の損傷
40	足・足趾部の損傷
41	上肢骨折の復習（肩甲骨～上腕骨）
42	上肢骨折の復習（前腕骨～指骨）
43	下肢骨折の復習（骨盤～膝蓋骨）
44	下肢骨折の復習（下腿骨～趾骨）
45	上肢脱臼の復習（肩関節）
46	上肢脱臼の復習（肘関節）
47	上肢脱臼の復習（手関節）
48	上肢脱臼の復習（指関節）
49	下肢脱臼の復習（股・膝関節）
50	下肢脱臼の復習（足・趾関節）
51	上肢軟部組織損傷の復習（肩部）
52	上肢軟部組織損傷の復習（肘部）
53	上肢軟部組織損傷の復習（上腕・前腕部）
54	上肢軟部組織損傷の復習（手・指部）
55	下肢軟部組織損傷の復習（股・大腿部）
56	下肢軟部組織損傷の復習（膝部）
57	下肢軟部組織損傷の復習（下腿部）
58	下肢軟部組織損傷の復習（足・趾部）
59	頭部の損傷
60	体幹の損傷
61	鑑別診断（上肢）
62	鑑別診断（下肢）
63	定期試験
64	試験解説

# シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床実習Ⅳ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

## 1 授業の内容

臨床実習施設（附属施術所，臨床実習施設等）において、見学実習を主体とした臨床実習を行う。

## 2 到達目標

臨床現場における適切な行動・態度、そして責任感を修得することを目標とする。  
施術および施術所の運営についても見学する。

## 3 授業の方法

各臨床実習施設の臨床実習指導者の指示のもと、臨床現場に即した行動を実践する。  
実際の施術の現場や、関連する仕事の様子を見学する。

一連の業務内容を理解して柔道整復師としての基本的姿勢を身に付ける。臨床実習施設へは各自が公的交通手段を利用し、開始時間の20分前には到着し10分前には着替えを終了しなければならない。

## 4 成績評価方法・基準

出席、実習記録レポート等の提出物、各指導者による評価を総合して最終評価とする。

## 5 評価の際の特記事項

毎回のレポート提出は評価の基準となる。

## 6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

毎日、臨床実習に必要な基礎知識（専門基礎科目，専門科目）を学習する。

## 7 使用教材，教具

「実習の手引き」

## 8 学生へのメッセージ

資格取得後、実務を実践することを念頭に置いて体験、学習しましょう。時間厳守、コンプライアンスを実践し、自己責任を持って行動してください。「実習の手引き」に記載されている注意事項を厳守してください。

体調不良や交通機関のトラブルなどで欠席、遅刻する場合、必ず担当教員に連絡をしてください。

## 9 教員氏名（ 赤島 紋花 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 柔道整復科 ）

実務経験の詳細（ 実務経験 有

整骨院にて施術者として勤務。患者への物理療法による治療経験をもとに講義を行う。 ）

## 10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 臨床実習Ⅳ ）

回数	授業内容
	4月～7月の間で45時間の臨床実習を行う。